

〔目的〕近年 中国茶は健康志向、わが国古来からの飲茶習慣、缶製品の登場による手軽さと相まってその輸入量は爆発的な伸びを示し、我々の食生活の中に浸透してきている。

演者らは多くの種類があり、異なった製法を持つ中国茶に注目し、1985年よりその軽異物について試験法の検討を行うと共に調査を継続しているが、中国茶の種類によって混入している軽異物の種類が異なり、又ある特殊な茶類に多くの軽異物が混入していることなど、若干の知見を得ることができた。同時に、中国茶が一般に飲用されていることを考慮し、家庭における除去法についても検討を行ったので報告する。

〔方法〕市販されている各種中国茶10gを用い、演者らの方法¹⁾により軽異物の捕集を行った。これを検鏡によりダニ類、昆虫類、昆虫片、ねずみの毛などに分類し、混入状況を調査した。

又、ナイロンメッシュを用いてダニの通過の有無ならびに家庭で一般に使用されている急須等による軽異物の除去について検討した。

〔結果〕中国茶をその製法によって分類し、混入している軽異物を調査したところ、後発酵茶に多くの軽異物、特にダニ類が見られた。半発酵茶は軽異物の量は少ないものの昆虫類および昆虫片の混入が見られた。この傾向は1990年の調査まで変化は見られなかった。

家庭における軽異物の除去は急須では困難であり、ナイロンメッシュを用いた茶漉し様の物が比較的良好であった。